

カラス対策の手引き

島しょ部を含む県内全域にカラス（ハシブトガラス・ハシボソガラス）が生息しており、果実や野菜を中心とした農業被害が発生しています。また、カラス被害は農業だけにとどまらず、ゴミが荒らされたりする生活被害や家畜が突かれたり家畜飼料が食べられたりする畜産被害、陸揚げした魚が突かれたりする漁業被害なども発生します。

そのため、カラス被害を減らすには地域全体で対策に取り組んで、カラスにエサ場を提供しない地域づくりを進めることが重要です。

カラス対策の心得

●カラスは食い溜めができない

鳥は飛ぶために体重を軽くしておく必要があります

カラスのエサを減らすことは、カラスの数を減らすことに繋がります

●カラスが怖がる色はない

黄色をよく認識しますが、特定の色を怖がったり嫌がったりすることはありません

●さまざまな被害が発生するので、地域で対策に取り組む

【農業被害】

果樹（ミカン・ブドウ・ビワ等）、野菜（スイカ・トウモロコシ・レタス・イチゴ等）などの食害、ビニールハウス等の園芸施設の損傷など

【生活環境被害】

ゴミを荒らす、電線や送電線への営巣、糞や鳴き声、人を突くなど

【畜産被害】

家畜（子牛や子豚、乳牛の乳房など）を突く被害、家畜飼料や水の食害

【漁業被害】

港などへ水揚げした魚の食害、養殖魚の飼料の食害など

エサを減らせば、カラスの数も被害も減ります！！

1. カラス（ハシブトガラス・ハシボソガラス）の生態

【生息状況】

本県には、留鳥としてハシブトガラス・ハシボソガラスが生息し、旅鳥としてミヤマガラスとコクマルガラスが冬季に大陸から飛来する。

農作物被害や生活被害などの原因になるのは、ハシブトガラスとハシボソガラスの2種類。

【形態】

□ ハシブトガラス：体長約55cm、体重700g程度。くちばしが太く、頭頂部にふくらみがある。

□ ハシボソガラス：体長約50cm、体重500g程度。くちばしが細く、額はなだらか。

【生息環境】

ハシブトガラス・ハシボソガラスの両種とも、山林から農地や市街地、海岸線にかけて生息する。

ただし、ハシブトガラスは山林や市街地、ハシボソガラスは農地のような場所を好むといわれる。

【食性】

両種とも雑食性で動物の死体や昆虫、他の鳥のヒナや卵、種子や果実などを食べる。

農作物も広く採食し、特にミカンやブドウなどの果樹やハクサイなどの野菜で被害が発生する。

ねぐらからの採食範囲は、10km程度とされる。

【繁殖】

春から夏にかけて営巣・繁殖を行う。3～5個程度の卵を産み、3週間くらいでヒナが生まれる。

ヒナは約1か月で巣立ちし、巣立ち後も家族で行動するが、翌年の繁殖期頃前には若鳥で群れを形成する。

エサが減る冬期には死亡率が高くなるが、農作物や畜産飼料、生ゴミや収穫残さのような人為的なエサが多い地域では死亡する個体が減るとされる。

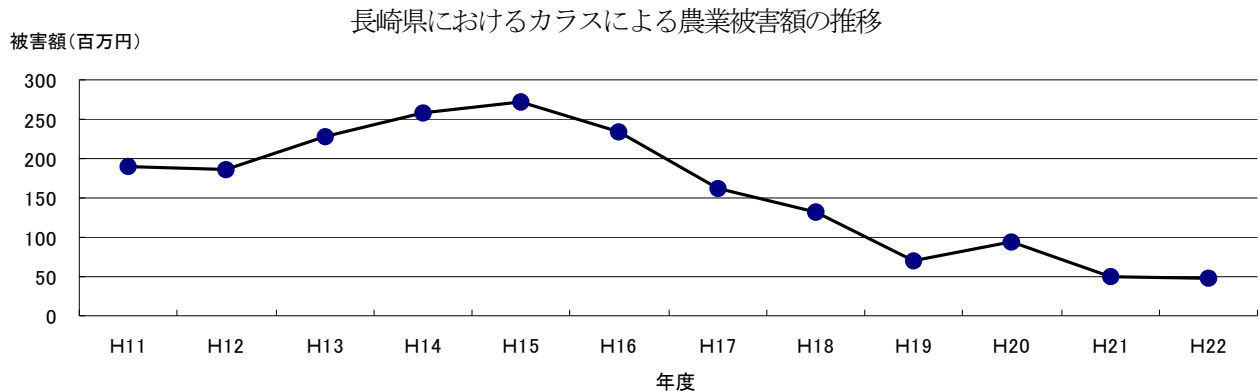


▲ゴミを突くカラス（黄色はカラスが嫌がる、怖がる色ではありません!）

2. 県内の被害と捕獲の状況

長崎県では、H15年度にカラスによる農業被害が2億7千万円と過去最高額となりましたが、その後はカラス対策の推進などによって、H22年度は約4千8百万円まで減少しています。

しかしながら、カラス被害はイノシシに次いで農業被害額全体の約1割を占めており、また、畜産業や漁業への被害、ゴミの散乱などの生活環境への被害も含めると、カラス被害は依然として地域の大きな問題となっています。



3. 具体的なカラス対策

① 棲み分け対策

カラス（鳥）は、食い溜めができないため、エサを減らすことがカラスを減らす一番の方法です。地域にあるカラスのエサ（対策をしていないほ場の農作物や畜舎の飼料、人間には不要であってもカラスの格好のエサになる生ゴミや収穫残さなど）を減らすことで、カラスが人里に近づきにくくなります。

また、カラスの誘引物を減らす対策は、イノシシやタヌキ、アナグマなど、他の野生鳥獣の被害軽減にも効果があります。



▲スイカ（収穫残さ）を突くカラス



▲スイカ摘果を集めてたい肥に利用

スイカ畑の向こうではトウモロコシが栽培されており、地域内のカラス被害が続く

② 侵入防止・飛来阻害

【侵入防止・・・ネットの設置】

カラスの侵入を防ぐ一番確実な方法は、畑や果樹園、畜舎などのカラスが入ってくる場所の全面にネットを張ることで、ネットを張る場合には、以下の注意をします。

- 網目が約 10cm 以下の網を使う
- 地面や止まり木になる物がある場所の近くでは、カラスが羽をたたんだ状態で侵入するため、特に網目の細かい物を使う
- 果樹棚などがある場合には、そのワイヤー等に網を縛り付けるなどして利用すると簡単にネットを設置できる
- 防鳥ネットのほかにも、防虫ネットや寒冷紗などでも同様の効果が得られるが、古い漁網を使うことで、対策費用の軽減が図れる



▲果樹棚のワイヤーと漁網（古網）を使ったネットの設置



▲ネットの上部に紐をつけておけば、落ち葉や雪を落とせる

【飛来阻害・・・テグス（釣り糸）等の設置】

ほ場が広く急傾斜地に位置するなどネットが全面に張れない場合や、より簡易な方法でカラスの群れによる侵入を防ぎたい場合などは、タケや単管パイプなどの棒にテグスを張ることでカラスの飛来を阻害できます。

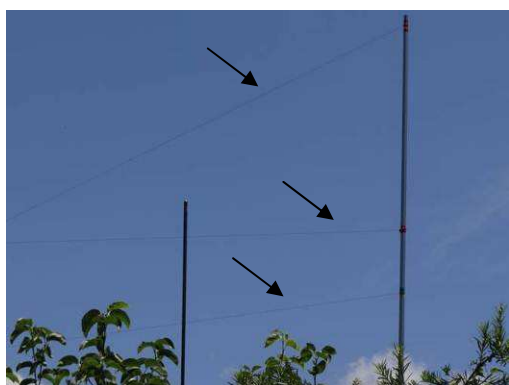
□ カラスが飛んでくる方向を中心に高さや向きを変えて張る

（一定間隔でテグスを張るよりも簡単で効果も高い）

□ 必ず透明や黒っぽい色など、（人にもカラスにも）見えづらい色の糸を使う

※ テグスによる飛来阻害は、カラスが見えない物に引っかかるという痛みと警戒心により効果が得られます。黄色はカラスが良く認識できるため、糸をよけられてしまう可能性が高く、十分な飛来阻害効果が期待できなくなります。

□ ビニールハウスなどへの飛来を阻害する場合、ハウスのてっぺん（カラスが止まる場所）から10～15cm 程度の位置（カラスの胸の高さくらい）にテグスを1本張ることで、ハウスビニールを突かれる被害を軽減できる



▲テグスは方向や高さを変えてカラスの来る方向を中心に張る
※ 透明や黒っぽい色の糸を使い、黄色は使わないようにする

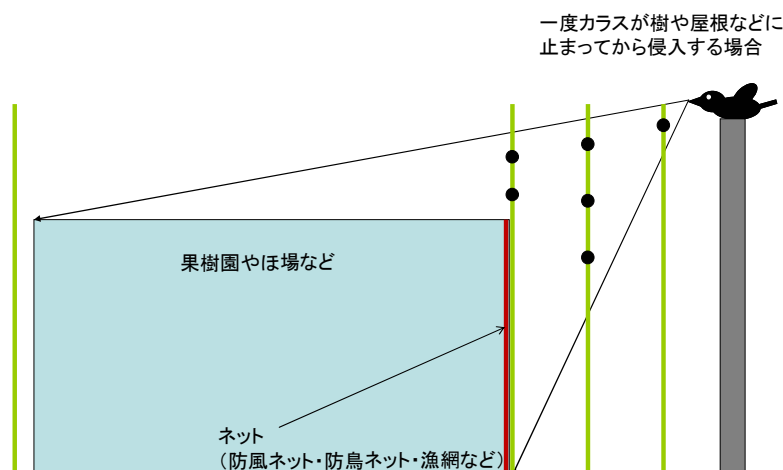


▲カラスが止まる場所から10～15cm上にテグスを張る

【ネットとテグスの併用】

ネットを全面張れない場合には、側面にネットを張り、上空部分にテグスを張ることでカラス被害を効果的に減らすことができます。

止まり木になる物がある時には、その前にテグスを張ることで飛来を阻害ができます。



効果的かつ効率的なテグスの設置には、まずはカラスの行動パターンをよく観察することです。

③ 捕獲対策（銃による捕獲とワナによる捕獲）

カラスの捕獲で有効な方法として、銃による捕獲とワナ（大型カラス捕獲檻）による捕獲があります。地域や場所によって、適した捕獲方法が異なりますので、地域にあった捕獲方法を選びましょう。

【銃による捕獲】

猟銃（散弾銃）によってカラスを捕獲します。銃所持者の減少に加えて、銃が使用できる場所が限られるなどの制限がありますが、捕獲に加えて追払い効果も期待できる方法です。

（良い点）

○ 捕獲だけではなく、追払い効果が得られる

（同じ地域でロケット花火等による追払いを併用すると被害軽減効果が高くなる）

○ 加害個体を狙って捕獲できるため、成鳥の捕獲も可能

（注意点）

● 銃の使用者や使用できる場所の制限がある

● カラスが高いところに逃げるなど、捕獲効率が悪い

（カラスがハンタージャケットや車を認識して、出てこなくなるという話があります）

● 撃ち落したカラスの回収が困難な場合がある

● 一年中、被害が発生する地域では、カラスを分散させてしまい、カラス被害地が広がる可能性が高い



▲銃による捕獲

（捕獲可能な場所が限られる上、捕獲効率も高くはないが、追払い効果が期待できる）

【カラス大型捕獲檻による捕獲】

カラス専用の檻ワナでカラスを捕獲します。エサと水とおとりカラスの世話が必要になりますが、一年を通じてカラスがいる地域では捕獲効率が高く、また銃を使う必要がないため、効果的な捕獲方法です。

（良い点）

○ 銃が使えない場所でもワナの設置ができる

○ ワナ免許等で捕獲が可能

（銃が不要。ただし、鳥をワナで捕獲するため、ワナ免許と有害捕獲許可が必要となる。）

○ 一人でも一度に大量のカラスを捕獲でき、分散の危険性がほとんどない

（注意点）

● おとりカラス（5羽程度）とエサと水の管理が必要

● 移設が困難なため、効果の高い場所を選ぶ必要がある

● 被害が一時的（作物がある期間だけ被害が発生する）な場所では、カラスの引き寄せが起こる可能性がある

● 周辺地域にエサがある状況（農地や畜舎などで侵入防止対策が行われていない、生ゴミや収穫残さなどのカラスのエサが豊富にある）では捕獲が困難

● 死亡率が高く繁殖能力がない若鳥が中心に捕獲されるため、カラスの数を減らす効果が十分得られない場合がある

（カラス大型捕獲檻の設置に適した場所）

□ 上空が開けており、空を飛ぶカラスから檻が見える場所

□ 近くに止まり木になるような木や構築物があるような場所

（管理に必要な水が入手などにも配慮が必要です）



大型カラス捕獲オリの設置場所

- ①被害が季節的な場所（ほ場など）から離れている
- ②オリが周辺から見える開けた場所
- ③近くに止まり木になるものがある

▲カラス大型捕獲檻（エサと水と囹のカラスで群れごと捕獲が可能）

対策を続けるための工夫をしましょう！！

- エサやり・水変え労力の軽減
⇒見回り当番を決める
引き出し式のエサ・水入れにする
- 捕獲作業の負担軽減
⇒捕獲従事者を増やす
炭酸ガスなどの安楽処分を導入する
埋設・焼却処分の段取りをしておく
- 捕獲オリの管理労力の軽減
⇒管理台帳をつけるようにする
中型肉食獣の侵入対策をしておく

④ その他のカラス対策（追払い）

学習能力の高いカラスには、ロケット花火等による積極的な追払いが効果的です
(より効果を高めるためには)

- ・カラスを見たらすぐに追払う
- ・一人よりもできるだけ大人数で追払う
- ・ロケット花火は、木や電線などの高い所に逃げた時に使うようにする
- ・発射音がせず、爆発音だけがするロケット花火が効果的
- ・人を見て逃げて、人がいなくなれば戻ってくる場合には、隠れてロケット花火を撃てばカラスの警戒心が高くなる
(パターンを変えて、カラスに馴れさせないことが重要)



▲ロケット花火を用いた追払い（打上げ器）

カラス対策の考え方

① カラスのエサ・エサ場をつくらない・・・棲み分け対策

- 食溜めできないカラスには、エサを与えないことが先決です
- 人間にとって不要なもので、カラス等の野生動物には良いエサになります
(生ゴミ・収穫残さ・落果や摘果など)
- 深めに耕起するなどして、少しでもカラスがエサを取りにくくする

② カラスの飛来を阻害する・・・防護対策

- 「1羽も入れさせない」のか「群れでは来させない」のか、対策の負担と効果を考えて対策（ネット・テグス）を選ぶ
- ほ場や人里に馴れさせないようにする
→・人が積極的に関わるようにする
・馴れが生じる対策（光・音・匂いなど）の場合は、設置場所や組合せをこまめに変える

③ それでもやって来るカラスを捕らえる・・・捕獲対策

- 場所にあった捕獲方法を選ぶ
→・一年中被害が発生する場所（捕獲効率を重視）：カラス大型捕獲オリの設置
・期間限定で被害が発生する場所（追払い効果を期待）：銃による捕獲

①と②の対策を行うことで、カラスの数を効果的に減らすことができます



「1本のテグスを張るかどうか」、「ミカン等の落果を1つ拾えるかどうか」が対策の分かれ目になります

4. カラス対策の進め方

① 効果の高い対策を選ぶ

効果が高い対策と効果が低い（一時的な効果や効果がないもの）対策は、馴れが生じるか生じないか、正しい科学的根拠に基づく対策か間違った根拠によるものかなどの違いがあります。

なるべく効果的な対策を進めることで、被害と対策労力の両方を軽減することが重要です。

（農家による対策事例）

	区分	追払い用具	効果	備考
効果的な対策	誘引物除去	○落果・摘果の処分、農作物残さや生ゴミの処分等	効果あり	カラスのエサ場がなくなり、カラスの飛来が減少
	侵入防止 飛来阻害	○ネット（防鳥・防虫・漁網・寒冷紗など）の設置 ○テグス（透明や黒っぽい色のもの）の設置	効果あり	テグスは黄色っぽい色の使用を避ける
	捕獲	○銃による捕獲 ○カラス大型捕獲檻による捕獲	効果あり	銃は被害が期間限定的な場所で実施 捕獲檻は一年中被害が発生する場所に設置
	人による 積極的な追払い	○ロケット花火等による追払い ○エアガンやゴム銃（パチンコ）による追払い	効果あり	発射音なし・爆発音ありのロケット花火が効果的 （銃猟実施地区では相乗効果あり）
効果がないか一時的	視覚	● CD・金属プレート・ビニール片など ● かかし・マネキン（置きっぱなしの状態） ● 目玉模様 ● カラスやワシ・タカの模型など ● 防鳥テープなど	効果がないかあっても一時的	※「音」・「光」・「匂い」など新しいものを設置した際には、その変化に対してカラスが警戒する可能性がある →変化がなく、カラスにとって不利益がないと、馴れが生じて効果がなくなる
	聴覚	● 爆音器 ● カラスなどの鳴き声等のテープ ● ロケット花火自動打上げ器	効果がないかあっても一時的	爆音器の使用時は近隣住民への配慮が必要 （ディストレスコールも馴れが生じる場合あり） 定期的で一定方向への打上げは馴れが生じる
	その他	● 磁石 ● 超音波発生器	効果なし	磁石により方向感覚が狂うことはないといわれる カラスは超音波を感知する能力がないといわれる

基本的には馴れが生じない対策（誘引物除去、侵入防止・飛来阻害、積極的な追払い、捕獲）を行きましょう。

視覚などに訴えかける対策（馴れが生じる対策）であっても、人がこまめに場所や組合せを変えることで、短期間の被害防止が可能になります。

効果と労力を考えて、対策を進めましょう。

棒でテグスを張る対策



棒に CD や黒いビニールをつけてぶらさげる対策



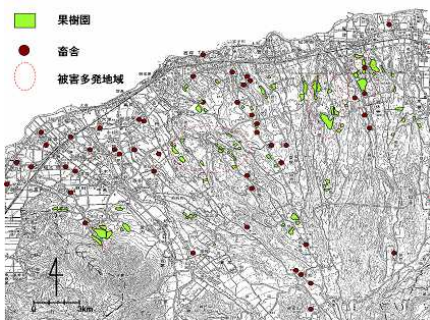
〈 対策の効果 〉
テグス >> CD など

〈 設置の労力 〉
テグス < CD など

② 地域ぐるみで対策を進める

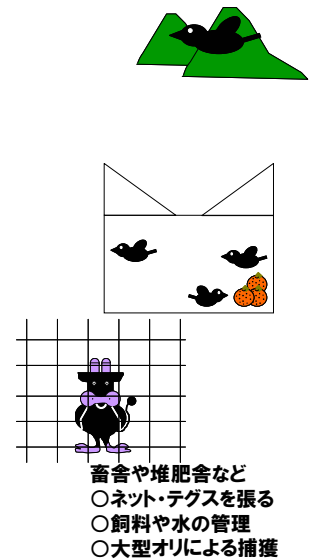
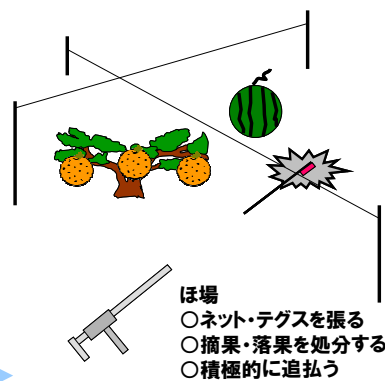
果樹（ミカン・ビワ・ブドウなど）をつくっている人、野菜（スイカ・トウモロコシ・ハクサイなど）をつくっている人、家畜（ウシ・ブタ・ニワトリなど）を育てている人に限らず、漁業者や農家でない人でもカラス被害を受ける可能性があります。

自分が被害を受けたり、住んでいる地域にカラスがたくさんいたりする場合、その原因を自分自身がつくっていないかを見直してみて、できる対策から始めてみましょう。このような対策を地域全体で取組むことは、カラス被害を軽減するだけでなく、イノシシ等の他の鳥獣被害にも強い地域づくりにつながります。地域で被害対策の作戦を話し合しましょう。



地域で状況を把握する

- カラスがいる場所
- カラスが来る時期や時間
- 被害が発生する場所や時期
- ほ場や畜舎の位置関係 など



場所や時期により効果的な対策を地域ぐるみで実施

地域をあげたカラス対策の取組事例（高知県高知市針木地区）

ナシ（新高梨）の一大生産地である針木地区では、地域の住民が協力してカラス対策に取り組まれています

【果樹園では】

- ・ ネットやテグスを張り、侵入防止や飛来阻害を中心とした対策
- ・ 摘果や落果の処分

【畜舎では】

- ・ 同じ地区内にある畜舎でも、牛舎や飼料置き場にカラスが侵入しないように、ネットやテグスを設置
- ・ 畜産農家自らが狩猟免許を取得して、畜舎敷地内に設置したカラス大型捕獲オリでカラスを捕獲

【地域住民は】

- ・ 農家でない方も参加して、散歩の際にはオレンジ色のジャケットを着用し、花火等でカラスを追払う対策